

リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2025年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務		作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株
工期	令和7年4月1日 ~ 令和8年3月31日		作成者	加藤 雅人
作業名称	路面清掃C	作業手順書	作成年月日	令和4年5月6日
使用機械 使用設備	路面清掃C車 1台 (代用:可搬標識搭載Wピック)		改正年月日	令和4年5月6日
			現場責任者	
使用工具、機器	火ばさみ・ゴミ袋・土のう袋		協力会社	会社名
			協力会社責任者	自署サイン
保護具	ヘルメット、安全靴、脚絆、手袋、視認性の良い作業着			作業順序
材料				
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す	自動車運転免許証			
作業人員	作業責任者 1名、作業員 1名、保安員 1名			
	合計 3名			
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)	周知会実施日	令和4年5月6日	
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自署サインする)			

1	事前準備
2	本線流入
3	路面清掃作業
4	本線離脱
5	片付け

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能性	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○○	○△	○×	○○	1:極めて小さい 関係者に対する周知
	△:時々発生する (1年に1回程度)	△○	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい 関係者に対する指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×○	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度 職長が確認
					△×、×△	4:かなり大きい 工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい 十分に訓練をした対策が必要	

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知

作業項目 (誰が)	手順 主なステップ	急所 作業のポイント	リスクの洗い出し (予想されるミス・ロス)	可能性	重大性	評価点	リスクレベル ミス・ロス	リスクの除去・低減のための 実施すべき事項の特定 (防止対策)
準備作業(全員)		健康状態の確認・免許・資格等の確認・光物(チョッキ・脚絆・ヘッドライト等)の充電確認・業務用ブレーキの確認、入場方法・入場箇所・車両順番・役割分担の確認・車両の始業前点検、工具の確認、積み込み荷の確認(落下・飛散対策)荷締め位置、荷台のネット・シート掛けの確認する。工事車両がロープ及び養生テープで確実に固定されていることを確認。担当者は施工計画段階でNEXCOと打合せした内容を作業員へ周知・報告すること。車両出入庫の際に、運転手は車両の周囲(上下含む)を指差し、障害物が無い事を確認のうえ、出入庫する。						
事前準備・点検	出発前準備・車両点検	危険ポイントの確認も行う	点検時、ドア等で指を挟む	×	△	×△	3	安 点検中は手袋を着用する
本線流入	道路管制センターへ作業開始連絡を行う	「50キロ規制」「低速車作業中」の点灯確認	本線流入時、一般車との接触する。	△	×	△×	4	安 手順やルールの厳守・十分な減速を心掛ける。
(暫定区間の場合)	路面清掃車の標示内容は「作業中追越禁止」を表示する							
(4車区間の場合)	路面清掃車の標示内容は「作業中右矢印」を表示する							
路面清掃作業(路肩)	①荷台前方の扉を開け転落防止バーを設置する		荷台や扉を開けた際に、本線へごみやものが転がり一般車と接触する	△	△	△△	3	安 ごみは土嚢袋へ入れ、転がりやすい道具があれば工具箱で保管すること。
	②路肩を低速走行(約10~30km/h)しながら運転手・作業員がゴミ等の発見に努める							
	③ゴミ等を発見したら声で停止の合図をして停車、警備員が一般車両に注意しながら降車し、一般走行車両に注意喚起を促し、作業員がゴミを回収する。							
	④作業員だけで回収出来るごみは運転手は席から離れる事なく停止後ハンドル切りはせずサイドブレーキ及びフットブレーキで待機。一人で持てない場合は運転手に支援してもらう							
	⑤回収後、最後に乗車した者が周囲の確認後、運転手に出発の合図を行う	回収中、一般車にはわられる。		○	×	○×	3	安 保安員は一般車に対して確実に注意喚起し、作業員は保安員の笛を合図に従うことを徹底する。
路面清掃作業(中分)	①運転手がゴミの有無を確認し、発見したら停車する。		重量のあるごみを運ぶ際に腰を痛める。	△	○	△○	2	安 ③に従い、重量物は2名以上で声を掛け合い、運搬する。
	②作業員・警備員が、警備員の確認・指示のもと、本線を横断する。警備員が後方に注意喚起し、作業員がゴミを回収する。							
	③作業員だけで回収出来るごみは運転手は席から離れる事なく停止後ハンドル切りはせずサイドブレーキ及びフットブレーキで待機。一人で持てない場合は運転手に支援してもらう							
	④回収後、最後に乗車した者が周囲の確認後、運転手に出発の合図を行う。							
路面清掃作業(橋梁)	①ゴミを発見したら合図し、最寄りの非常駐車帯で停止する。		車から降りる際にドアと一般車が接触する	△	△	△△	3	安 運転手が車を降りる場合は、保安員の合図に従うこと
	②警備員を必ず上流側に配置して走行車両に注意喚起し、作業員がゴミを回収する。		ごみ回収時、先端で指を怪我する	△	○	△○	2	安 作業中は必ず、手袋を着用すること
	③回収後、最後に乗車した者が周囲の確認後、運転手に出発の合図を行う。道路の線形によっては運転手から後方が見にくい場合がある。その際は作業員が後方確認を行う。							
路面清掃作業(回送)	①作業のできない範囲(TN内など)では、荷台前方の扉は閉じて走行する。							
本線離脱	一言管制室に作業終了連絡を行い、「50キロ規制」「低速車作業中」の消灯依頼を行う		本線離脱時、一般車との接触する。	△	×	△×	4	安 離脱ルールの厳守・十分な減速を心掛ける。
	作業終了後、回収したごみを定められた箇所へ仮置きし点検、日報の記入		荷台から物を落とし、一般車に当たる	×	△	×△	2	安 現場離脱前に必ず荷台の点検・確認を行うこと。
片付け	回収したゴミを種別ごとに計量し、計量表に記録する。ゴミを種別ごと写真撮影し、分別ボックスへ。							
	車内等に忘れ物がないか確認する。	使用器具の整理整頓を行い所定の位置に戻す						
								工事車両蓋を外した場合は専用のケースに確実に格納し車内に保管する事